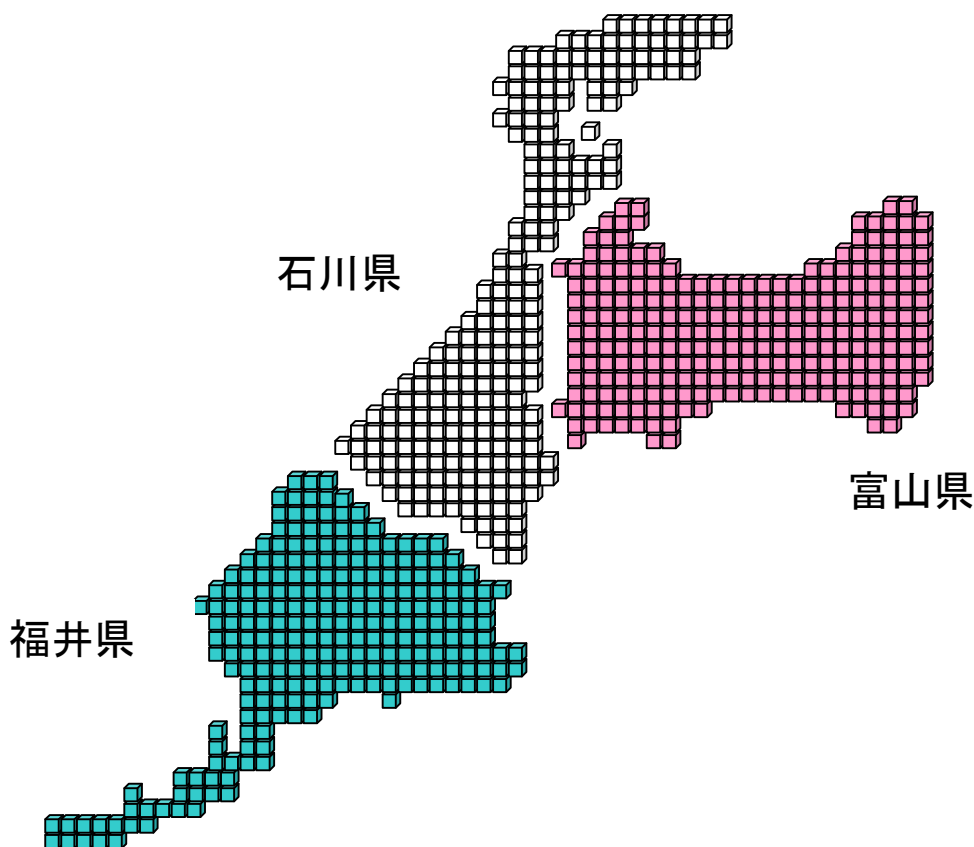


# 管内 経済情勢 報告



令和 8 年 4 月

財務省 北陸財務局

お問合せ先  
財務省 北陸財務局 経済調査課  
TEL (076) 292-7858

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。生産活動は、生産用機械が弱含んでいるものの、化学が回復しているほか、電子部品・デバイスが持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	7年度は増加見込みとなっている	7年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	7年度は減益見込みとなっている	7年度は増益見込みとなっている	↗
企業の景況感	「上昇」超となっている	「下降」超となっている	↘
住宅建設	弱い動きとなっている	下げ止まりつつある	↗

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では衣料品の動きが鈍いものの、スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、全体では緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストア販売は、カウンターフーズに動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、拡大している。ホームセンター販売は、園芸用品等に動きがみられることから、堅調となっている。家電大型専門店販売は、エアコン等に動きがみられることから、持ち直しつつある。新車販売は、足踏みの状況にある。主要観光地の入込客数は前年を上回っている。主要温泉地の宿泊客数は前年を下回っている。

#### (主なヒアリング結果)

- 百貨店における衣料品の存在感は年々低下。安価でも機能性の高い商品が多く出回っているほか、購買チャネルも多様化しており、ブランドを求めて来館する顧客が減少している。(百貨店)
- 物価上昇に伴い単価は上昇しているものの、客数、買上点数は減少傾向が続いている。特売日の値引き設定を強化したことで売上げは増加しているが、販促日に売上げが集中し、平常日との差が大きくなっている。(スーパー)
- 揚げ物は主力商品の販売数量が増加していることに加え、新商品の投入効果もみられており、売れ行きがよい。カウンターコーヒーや店内調理の弁当は根強い支持を集めており、来店動機となっている。(コンビニエンスストア)
- 生鮮食品は価格を抑えて販売しており、消費者が流れてきている。物価高による節約志向から、低価格の化粧品や自社ブランドの商品に動きがみられる。(ドラッグストア)
- 2月後半から気温が上がり、花苗や肥料に動きがみられたほか、3月は天候がよく、除草関連用品が売上げを牽引した。(ホームセンター)
- エアコンは、2027年4月の省エネ基準引上げを見据えた駆け込み需要により、販売数量を伸ばしている。携帯電話は、高単価な新モデルの発売や2年に一度買い換えるサイクルの定着により、売上げを伸ばした。(家電大型専門店)
- 4月の環境性能割廃止に伴い登録を後ろ倒しにする動きがみられ、3月の登録台数は前年を下回った。自動車メーカーが生産台数を制限しているため、注文を受けたくても受けられない車種が増えている。新型車の投入が少ないことも影響し、受注台数は伸び悩んだ。(自動車販売店)
- 新幹線効果の落ち着いたきに加え、人件費の上昇や重油価格等の高騰により宿泊料を値上げしたこともあって、宿泊客数は前年を下回って推移している。(福井：温泉地)
- 中国人宿泊客は減少しているものの、台湾や韓国、香港からの宿泊客が多く、インバウンドは前年と比べて増加している。(富山：温泉地)
- 観光地として金沢が選ばれているほか、3月は比較的天候にも恵まれたことから、国内客、インバウンドともに増加している。(金沢：観光地)
- 「今行ける能登 団体旅行応援キャンペーン」の効果によって、団体バスが増加。この先の予約も順調となっている。(能登：観光地)
- 国内旅行は、春休みの家族旅行や卒業旅行などのテーマパーク需要が増加している。(旅行代理店)
- ドバイ国際空港などの欠航による宿泊や夕食キャンセルは数件程度。インバウンドは引き続き順調に推移しており、4月の宿泊客数は前年を上回っている。(宿泊)

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

化学は、大宗を占める医薬品で、回復している。電子部品・デバイス、スマートフォン向けや自動車向けで緩やかに持ち直しつつあるほか、AIサーバー向けで増加していることなどから、全体では持ち直しつつある。生産用機械は、半導体製造装置で持ち直しているものの、繊維機械で持ち直しに向けた動きに一服感がみられるほか、金属加工機械で弱含んでいることなどから、全体では弱含んでいる。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用が減少していることなどから、全体では弱含んでいる。繊維は、衣料向けを中心に弱含んでいる。

- 他社が不採算品目から撤退した影響で、当社がメインサプライヤーとなる品目が増えており、供給義務を果たすため製造ラインを増設するなど生産体制を強化している。(化学)
- 自動車向けは、新製品の発売効果や海外メーカーの生産調整からの脱却の動きがみられ、緩やかに増加している。また、小規模であるが、AI需要の拡大に伴うデータセンター向けの受注が増加している。(電子部品・デバイス)
- 金属加工機械は、自動車関連で国内の引き合いは少しずつ出てきたが、まだ本格的ではなく、米国向けでは一服感がみられるなど、海外向けを中心に受注は生産能力を大きく下回る水準となっている。(生産用機械)
- 住宅用は、樹脂製や複合サッシが主流となっており、アルミサッシの市場が縮小している。(金属製品)
- スポーツウェアが本来のスポーツ用よりもカジュアル用途で用いられる場面が多くなったことで、当社の得意とする高い機能性を付加した生地需要が落ちている。(繊維)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、高水準で推移している。新規求人数は前年を下回っており、新規求職者数は前年を上回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。

- 人手の集まりにくい繊維業でもここで働きたいと思われるような環境にするため、休日日数を増加させたほか、社屋をスタイリッシュに改装し社員から好評を得ている。(繊維)
- 留学生の採用を増やして海外営業に生かしているほか、営業職や製造現場でも女性社員が増えてきているなど、人材活用の多様化を進めている。(生産用機械)
- 重たい製品を自動で運ぶロボットの導入や製品の異常検知にAIを活用するなど、省力化を進めている。(繊維)
- 和食の提供に必須の魚をさばける調理人の確保に苦戦しており、そうしたスキルの不要な洋食の提供開始を模索している。(宿泊)
- ベアが数年続き収益的に厳しくなっており、ベアを続けるためには、生産性向上が必須の状況。(小売)

■ 設備投資 「7年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 製造業では、情報通信機械器具などが減少となるものの、金属製品、化学工業などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、運輸・郵便などが減少となるものの、金融・保険、小売などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。

- 自動車分野の能力増強のための新工場建設のほか、新製品生産のための設備で増加見込み。(金属製品)
- 店舗等施設の移転・増設やシステム更新等により、増加見込み。(金融・保険)
- 前年度の半導体増産のための新工場建設の反動により、減少見込み。(情報通信機械器具)

■ 企業収益 「7年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 製造業では、生産用機械器具などが減益となるものの、繊維工業、化学工業などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、小売などが増益となるものの、学術研究、専門・技術サービス、運輸・郵便などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。なお、先行きは、全産業では8年4-6月期は「下降」超、8年7-9月期は「上昇」と「下降」が均衡する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「下げ止まりつつある」

- 新設住宅着工戸数で見ると、下げ止まりつつある。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額で見ると、前年を下回っている。

■ 金融機関の貸出金 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。

■ 企業倒産 「前年を上回っている」

- 件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ 消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合) 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数で見ると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (8年1月判断)	今回 (8年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
福井県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、回復のテンポが緩やかになっており、生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。



令和8年4月22日発表

# 管内経済情勢報告

## 【概要資料】

### 〔管内経済の概況〕

北陸財務局管内(石川県、富山県、福井県)の最近の経済動向をみると、持ち直している。

(総括判断のポイント)

※前回1月判断を据置き

個人消費は、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では「緩やかに回復しつつある」。生産活動は、生産用機械が弱含んでいるものの、化学が回復しているほか、電子部品・デバイスが持ち直しつつあることなどから、全体では「緩やかに持ち直しつつある」。雇用情勢は、「緩やかに持ち直している」。

### 【先行き】

○ 雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

### 【総括判断】

項目	令和8年1月	令和8年4月	前回との比較
総括判断	持ち直している。	持ち直している。	→

### 【主要項目の判断】

項目	令和8年1月	令和8年4月	前回との比較
個人消費	緩やかに回復しつつある。	緩やかに回復しつつある。	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある。	緩やかに持ち直しつつある。	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している。	緩やかに持ち直している。	→

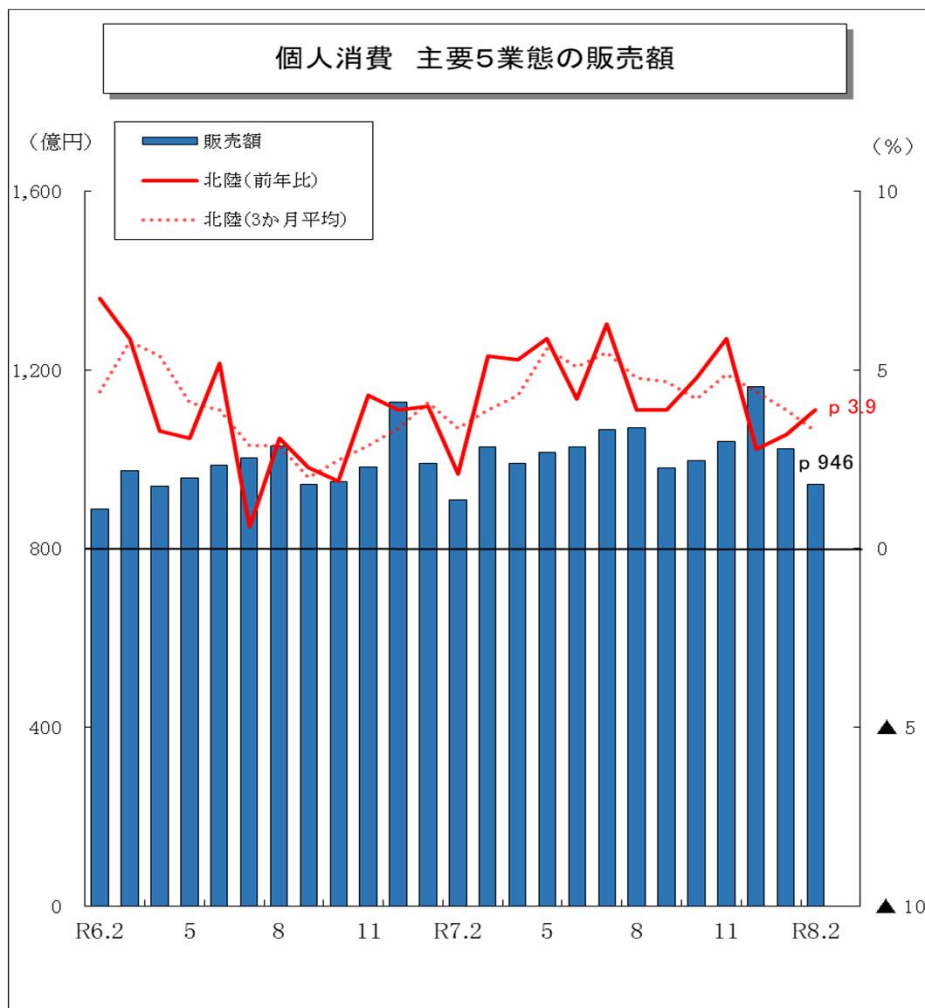
令和8年4月  
財務省 北陸財務局

お問合せ先  
財務省 北陸財務局 経済調査課  
TEL (076) 292-7858

# 1. 個人消費 … 緩やかに回復しつつある

※ 前回1月判断を据置き(令和7年1月以降、6期連続の据置き)

百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。



業 態	判 断	前回との比較
百貨店・スーパー	緩やかに回復しつつある	➡
コンビニエンスストア	堅調となっている	➡
ドラッグストア	拡大している	➡
ホームセンター	堅調となっている	➡
家電大型専門店	持ち直しつつある	➡
新車販売	足踏みの状況にある	↘

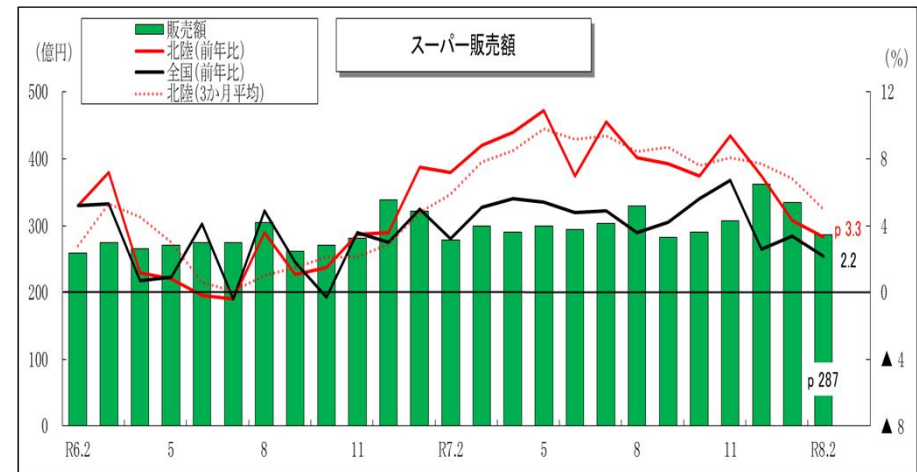
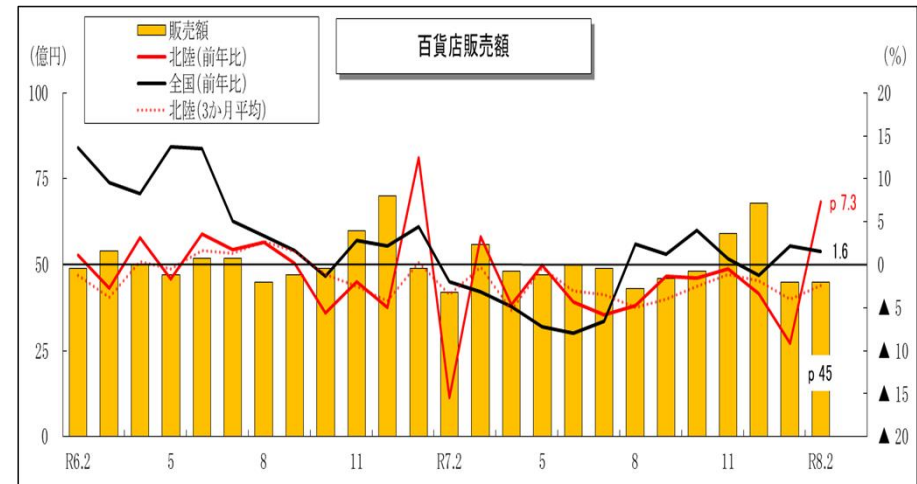
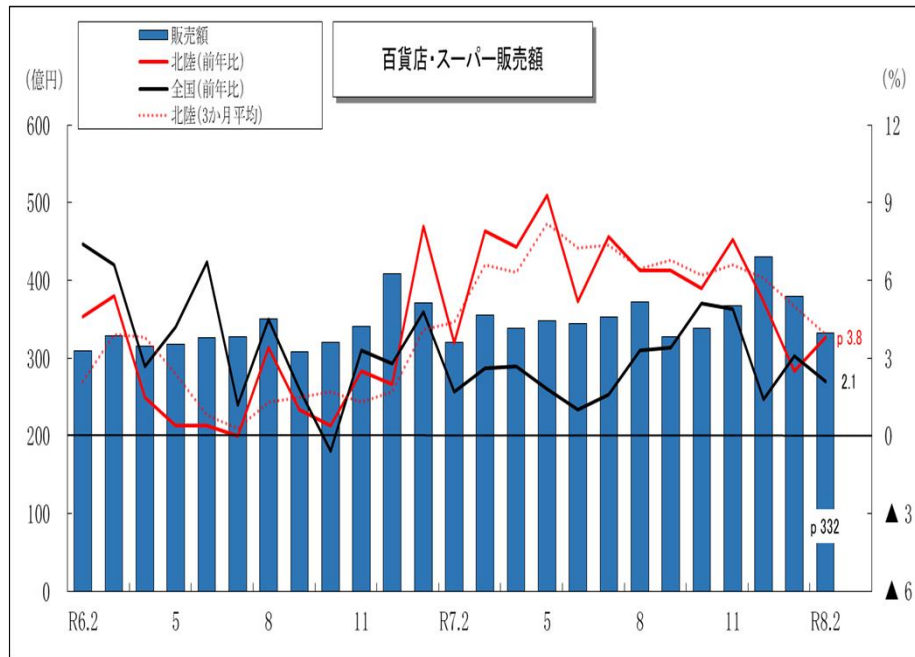
(注1) 主要5業態は、各業態(百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店)の販売額を合計したもの。

(注2) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、中部経済産業局、北陸財務局

# (1) 百貨店・スーパー販売

百貨店・スーパー販売は、百貨店では衣料品の動きが鈍いものの、スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、全体では緩やかに回復しつつある。  
 ※前回1月判断を据置き(令和7年1月以降、6期連続の据置き)



## (主なヒアリング結果)

- 百貨店における衣料品の存在感は年々低下。安価でも機能性の高い商品が多く出回っているほか、購買チャネルも多様化しており、ブランドを求めて来館する顧客が減少している。(百貨店)
- 高額品は外商を中心に売上げを伸ばしている。4月足下でも富裕層の動きは変わらず堅調に推移している。(百貨店)
- 物価上昇に伴い単価は上昇しているものの、客数、買上点数は減少傾向が続いている。特卖日の値引き設定を強化したことで売上げは増加しているが、販促日に売上げが集中し、平常日との差が大きくなっている。(スーパー)
- ガソリン価格高騰を懸念。ガソリン価格が上がると遠方からの客足が鈍くなる恐れがある。(スーパー)

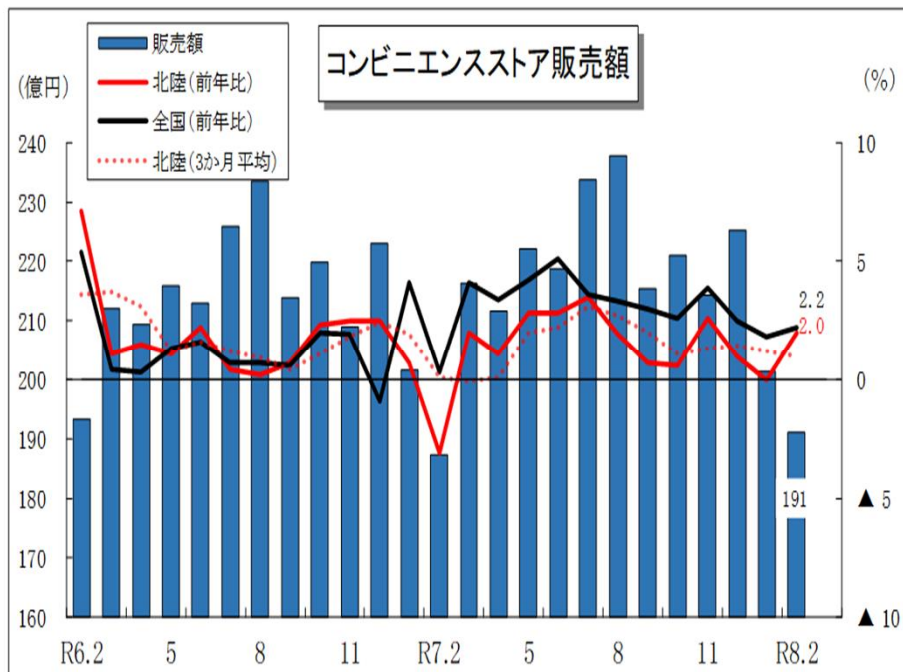
(注)3か月平均は当局試算。

(資料)経済産業省、中部経済産業局

## (2) コンビニエンスストア販売等

①コンビニエンスストア販売は、カウンターフーズに動きがみられることから、堅調となっている。

※前回1月判断を据置き(令和4年10月以降、15期連続の据置き)



(注) 3か月平均は当局試算。

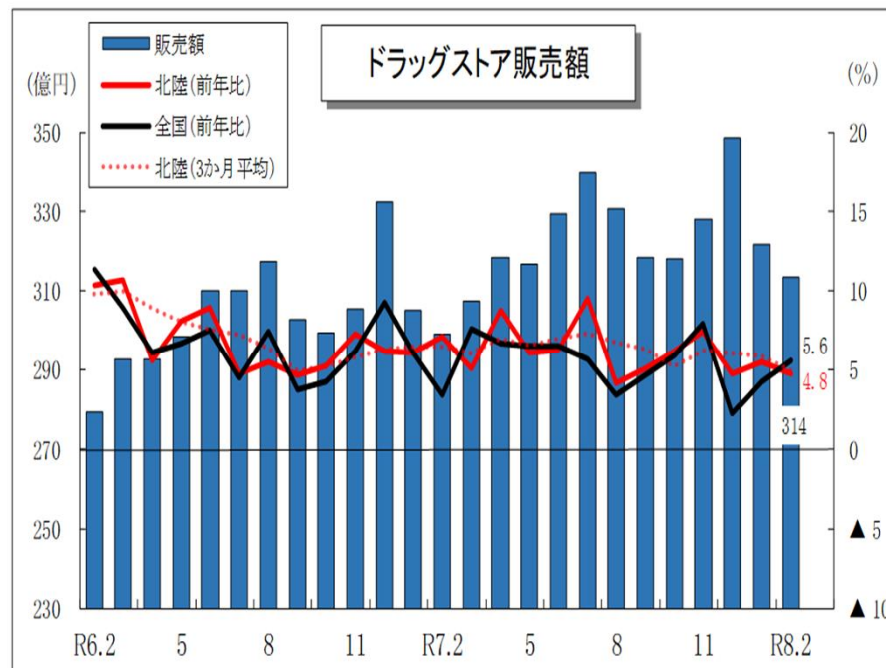
(資料) 経済産業省、北陸財務局

(主なヒアリング結果)

- 揚げ物は主力商品の販売数量が増加していることに加え、新商品の投入効果もみられており、売れ行きがよい。
- カウンターコーヒーや店内調理の弁当は根強い支持を集めており、来店動機となっている。

②ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、拡大している。

※前回1月判断を据置き(令和6年1月以降、10期連続の据置き)



(注) 3か月平均は当局試算。

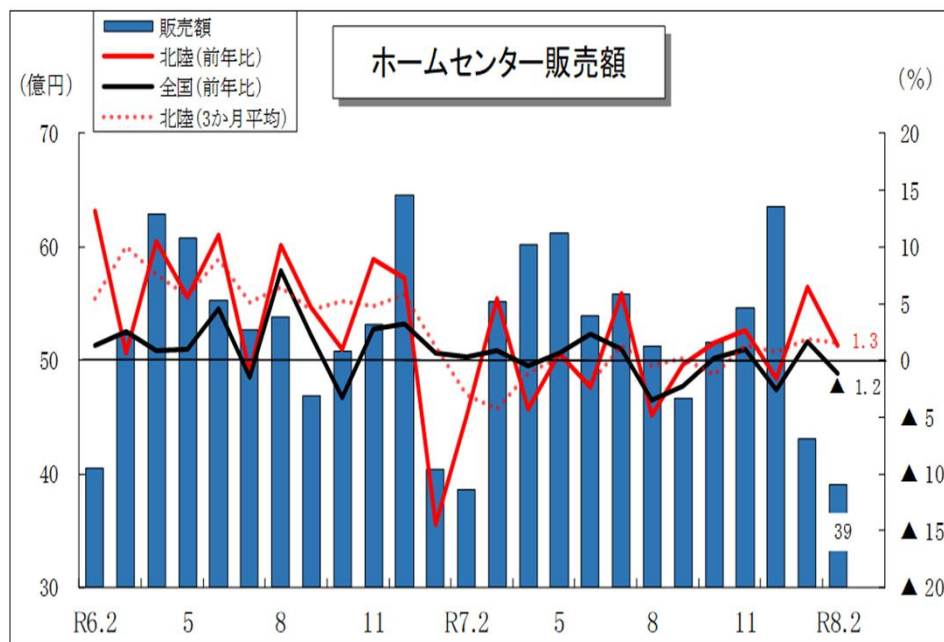
(資料) 経済産業省、北陸財務局

(主なヒアリング結果)

- 生鮮食品は価格を抑えて販売しており、消費者が流れてきている。
- 昨年よりも花粉症の流行が早く始まり、花粉症薬に動きがみられた。

③ホームセンター販売は、園芸用品等に動きがみられることから、堅調となっている。

※前回1月判断を据置き



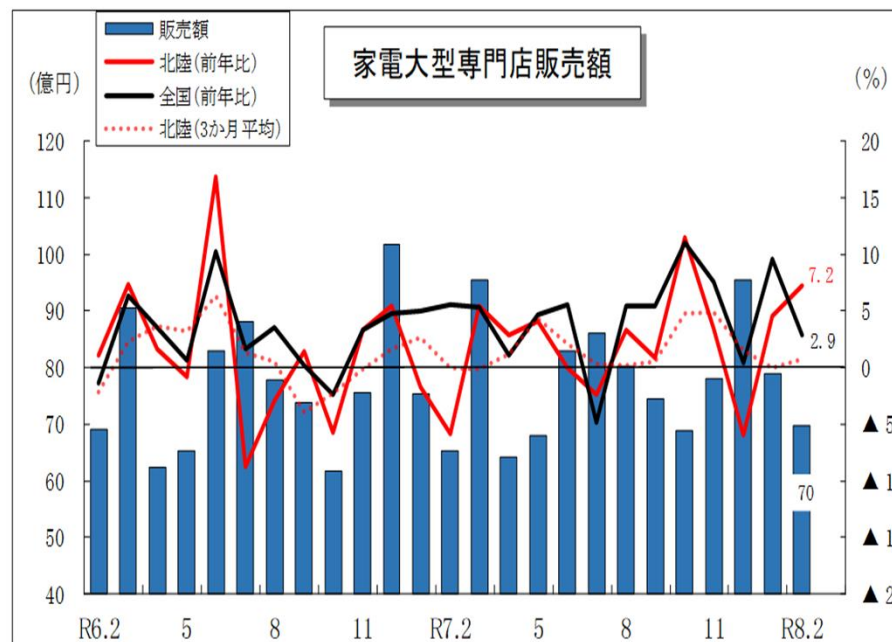
(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、北陸財務局

(主なヒアリング結果)  
 >2月後半から気温が上がり、花苗や肥料に動きがみられたほか、3月は天候がよく、除草関連用品が売上げを牽引した。

④家電大型専門店販売は、エアコン等に動きがみられることから、持ち直しつつある。

※前回1月判断を据置き



(注) 3か月平均は当局試算。

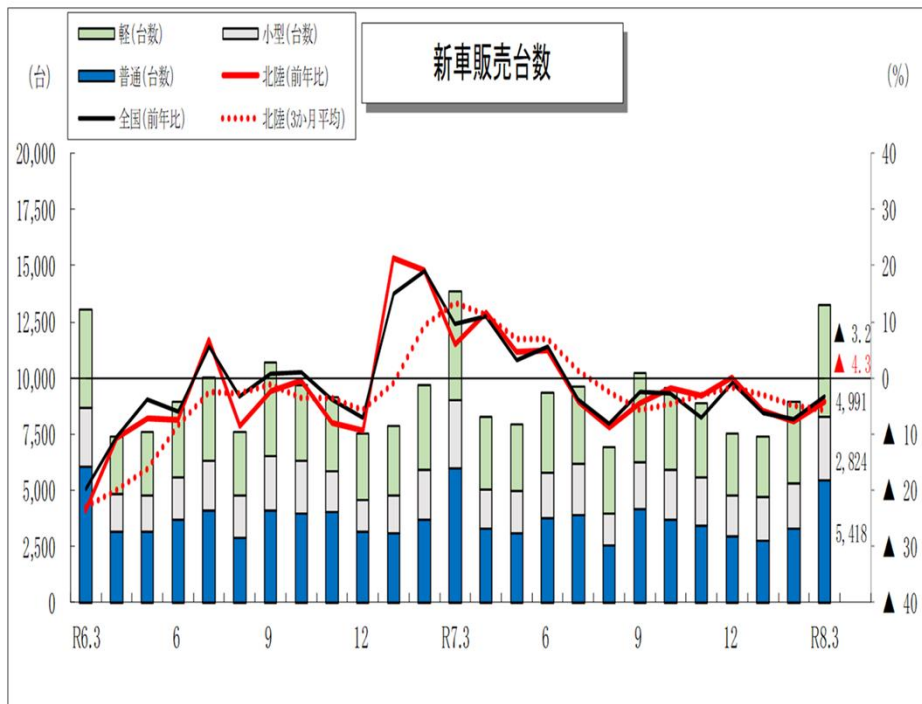
(資料) 経済産業省、北陸財務局

(主なヒアリング結果)  
 >エアコンは、2027年4月の省エネ基準引上げを見据えた駆け込み需要により、販売数量を伸ばしている。  
 >携帯電話は、高単価な新モデルの発売や2年に一度買い換えるサイクルの定着により、売上げを伸ばした。

### (3) 新車販売

足踏みの状況にある。

※前回1月判断(「持ち直しに向けた動きに一服感がみられる」)を下方修正  
(令和7年10月以来、2期ぶりの下方修正)

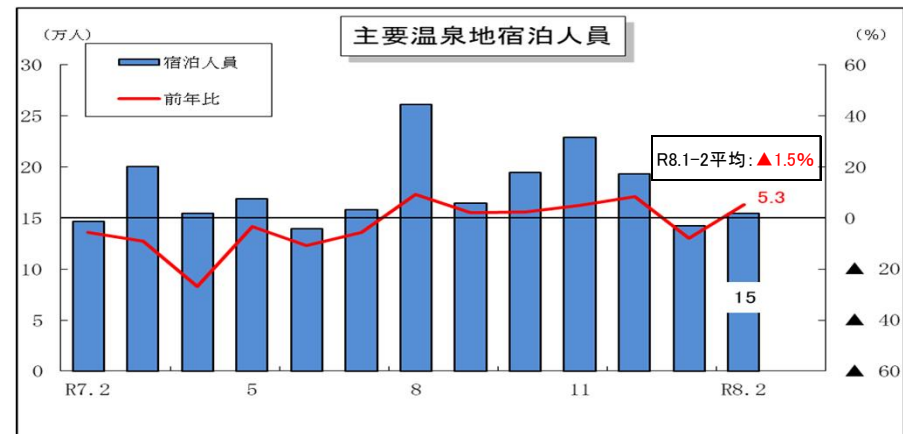


(資料) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、北陸財務局

(主なヒアリング結果)  
 > 4月の環境性能割廃止に伴い登録を後ろ倒しにする動きがみられ、3月の登録台数は前年を下回った。  
 > 自動車メーカーが生産台数を制限しているため、注文を受けたくても受けられない車種が増えている。新型車の投入が少ないことも影響し、受注台数は伸び悩んだ。

### (4) 温泉・観光

① 主要温泉地の宿泊客数は、前年を下回っている。



(注) R6.1~12の輪島温泉は未集計。

(資料) 北陸観光協会

(主なヒアリング結果)

> 新幹線効果の落ち着きに加え、人件費や食材費等の上昇により宿泊料を値上げしたこともあって、宿泊客数は前年を下回って推移している。(福井)  
 > 中国人宿泊客は減少しているものの、台湾や韓国、香港からの宿泊客が多く、インバウンドは前年と比べて増加している。(富山)

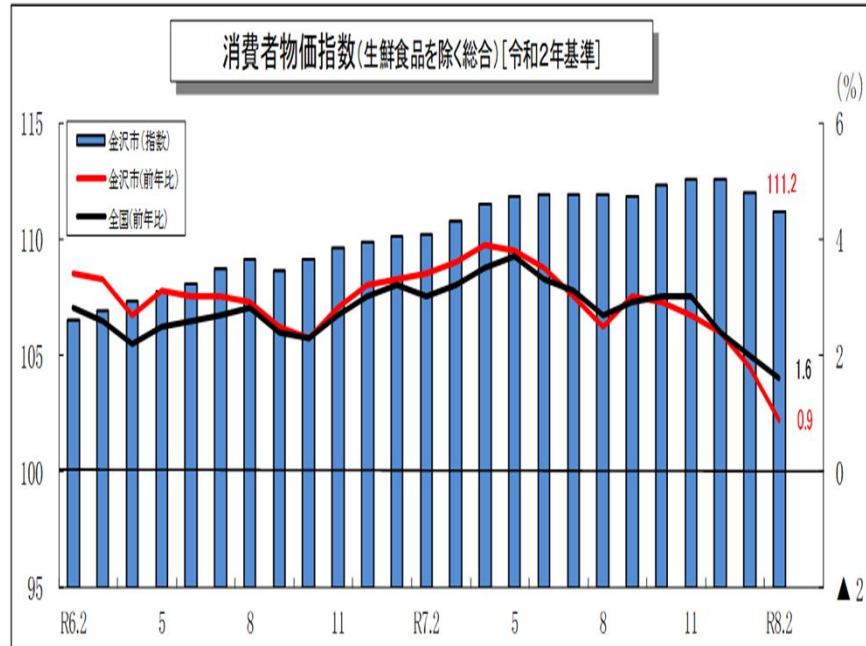
② 主要観光地の入込客数は、前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

> 観光地として金沢が選ばれているほか、3月は比較的天候にも恵まれたことから、国内客、インバウンドともに増加している。(金沢)  
 > 「今行ける能登 団体旅行応援キャンペーン」の効果によって、団体バスが増加。この先の予約も順調となっている。(能登)

## (消費者物価)

2月の消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合)は、前年を上回っている。

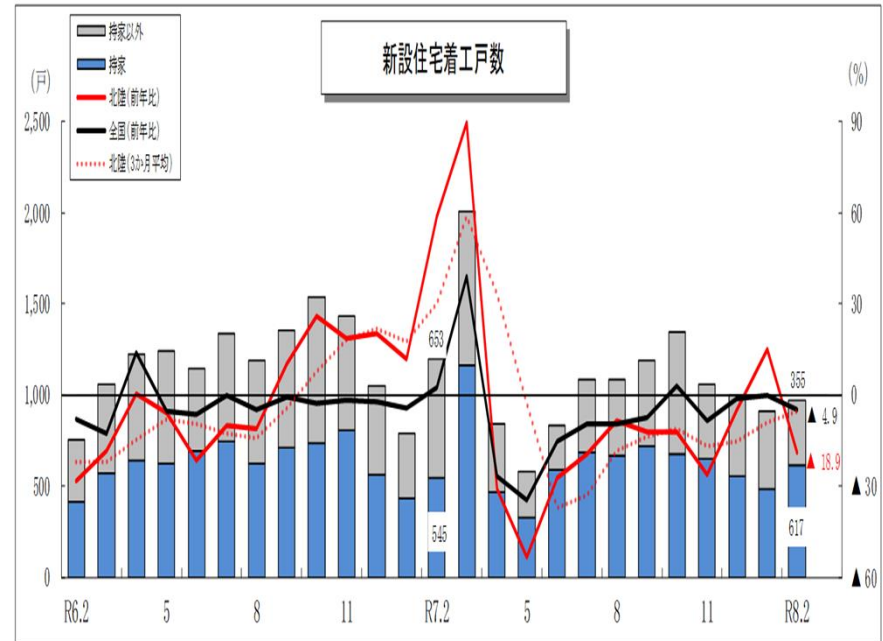


(資料)総務省

## 2. 住宅建設 … 下げ止まりつつある

新設住宅着工戸数でみると、下げ止まりつつある。

※前回1月判断(「弱い動きとなっている」)を上方修正  
(令和7年1月以来、5期ぶりの上方修正)



(注)3か月平均は当局試算。

(資料)国土交通省、北陸財務局

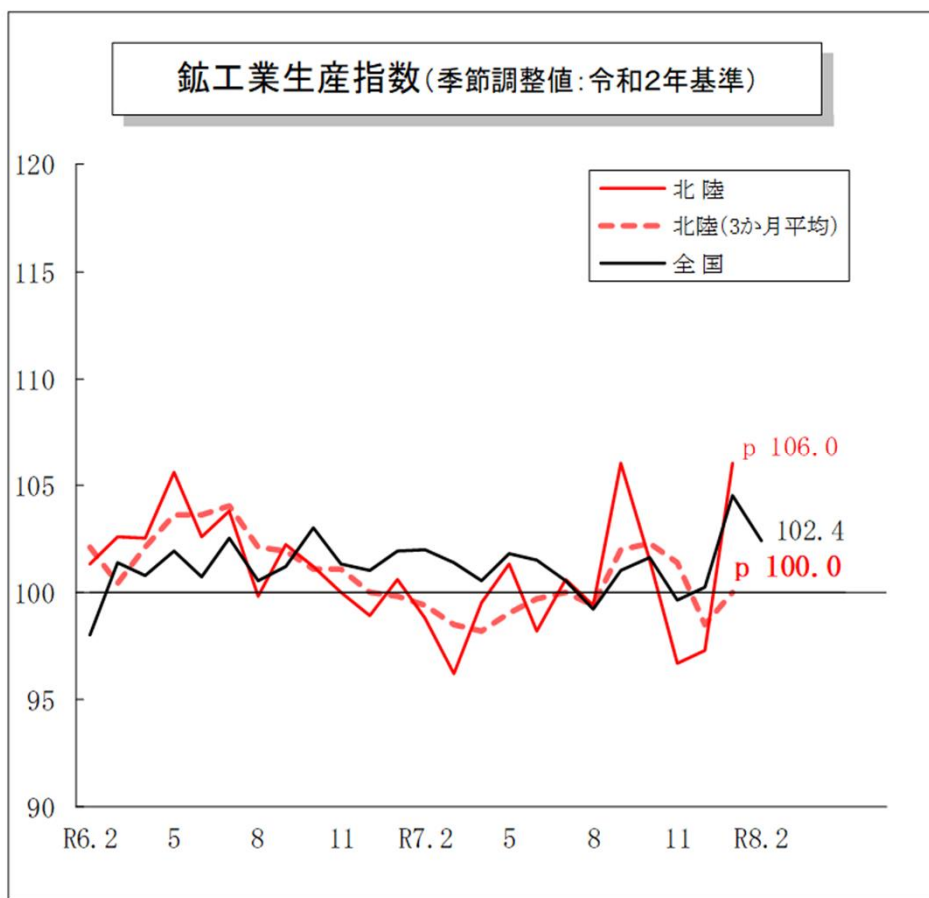
### (主なヒアリング結果)

- > 値上がりが続いているため見切りをつけて購入に踏み切るケースもみられている。4月に値上げを予定していたが、その前に、駆け込みのまとまった受注があった。
- > 被災者による住宅再建のための受注が増えている。遠方のため業者や資材の手配が困難なケースもあるができる限り対応している。
- > 建築基準法改正直後は審査期間が長期化していたが、現在は徐々に解消してきており着工までのペースも戻りつつある。

### 3. 生産活動 … 緩やかに持ち直しつつある

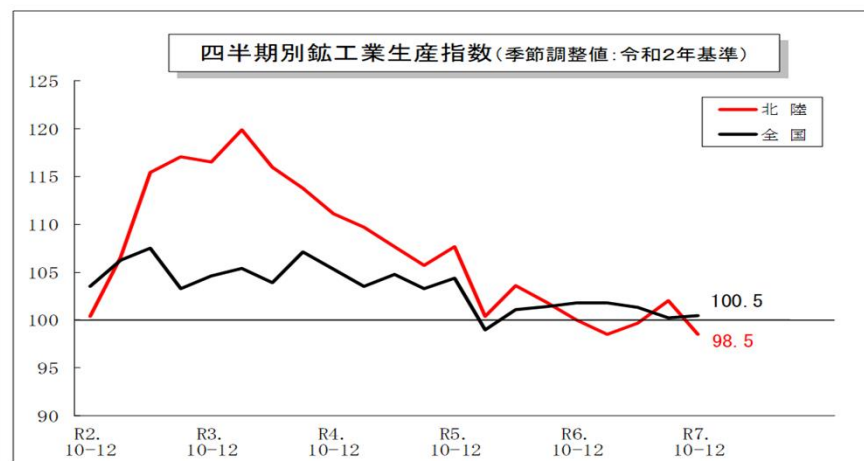
※ 前回1月判断を据置き

生産用機械が弱含んでいるものの、化学が回復しているほか、電子部品・デバイスが持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに持ち直しつつある。



(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局



業種	(ウェイト) 総合=10,000	判断	前回との 比較
化学	(1540.5)	回復している	→
電子部品・デバイス	(1401.6)	持ち直しつつある	↗
生産用機械	(1233.3)	弱含んでいる	↘
金属製品	(905.8)	弱含んでいる	→
繊維	(579.9)	弱含んでいる	↘

業種別にみると、

(1) 化学は、大宗を占める医薬品で、回復している。

※前回1月判断を据置き

(主なヒアリング結果)

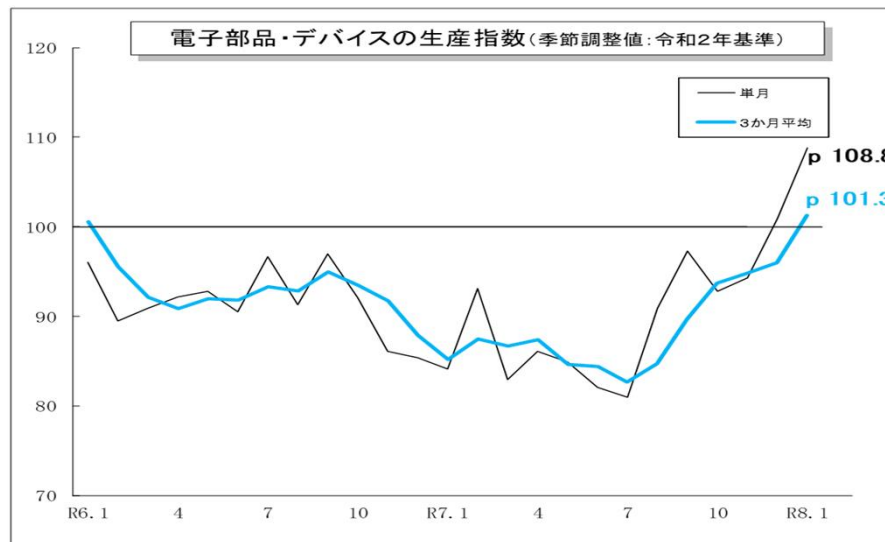
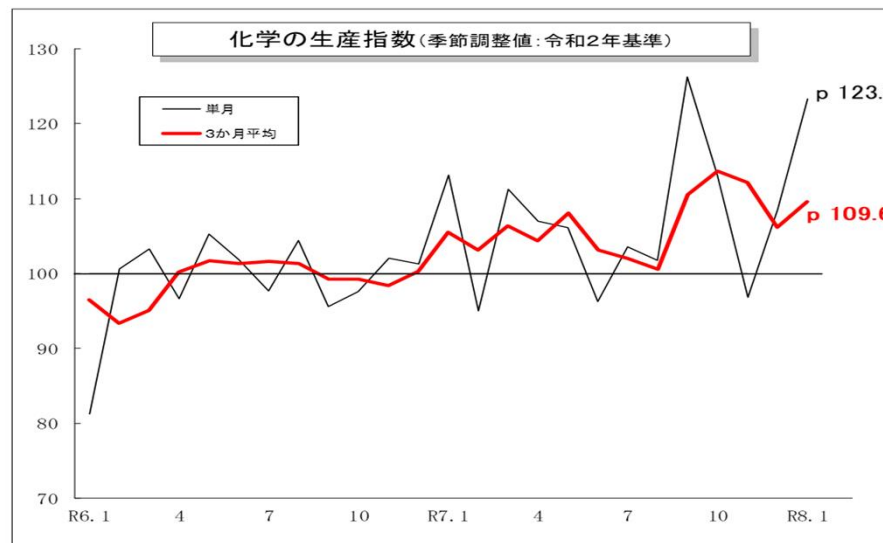
- 他社が不採算品目から撤退した影響で、当社がメインサプライヤーになる品目が増えており、供給義務を果たすため製造ラインを増設するなど生産体制を強化している。
- 選定療養制度の影響で引き続きジェネリックの医療用医薬品の需要が増加している。

(2) 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けや自動車向けで緩やかに持ち直しつつあるほか、AIサーバー向けで増加していることなどから、全体では持ち直しつつある。

※前回1月判断「緩やかに持ち直しつつある」を上方修正  
(令和8年1月以降、2期連続の上方修正)

(主なヒアリング結果)

- スマホ向けは、北米メーカーの新モデルの売れ行きがよく、本来ピークアウト時期であるものの、前年同時期よりも生産・出荷とも増加している。
- 自動車向けは、新製品の発売効果や海外メーカーの生産調整からの脱却の動きがみられ、緩やかに増加している。
- 小規模であるが、AI需要の拡大に伴うデータセンター向けの受注が増加している。



(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局

(3) 生産用機械は、半導体製造装置で持ち直しているものの、繊維機械で持ち直しに向けた動きに一服感がみられるほか、金属加工機械で弱含んでいることなどから、全体では弱含んでいる。

※前回1月判断(「持ち直しつつある」)を下方修正  
(令和7年7月以来、3期ぶりの下方修正)

(主なヒアリング結果)

- ▶半導体製造装置は、生成AI需要の増加からAIサーバー向けで受注が急増しており、今後生産が増加していく見通し。
- ▶繊維機械は、足下まで一部製品で減産体制を維持してきたが、中国からの大型受注を受けて、最盛期となる夏場に向け設備・人員の手配を急いでいる。
- ▶金属加工機械は、自動車関連で国内の引き合いは少しずつ出てきたが、まだ本格的ではなく、米国向けでは一服感がみられるなど、海外向けを中心に受注は生産能力を大きく下回る水準となっている。

(4) 金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用が減少していることなどから、全体では弱含んでいる。

※前回1月判断を据置き(令和7年7月以降、4期連続の据置き)

(主なヒアリング結果)

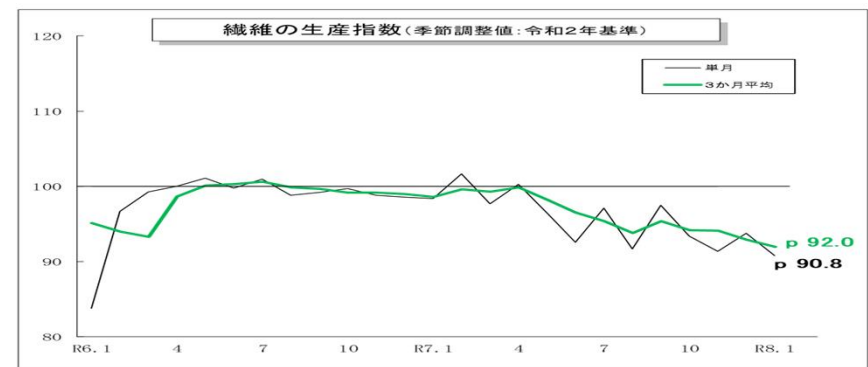
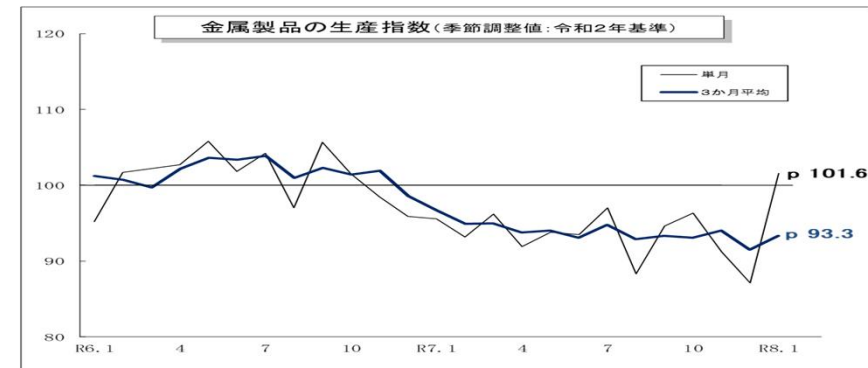
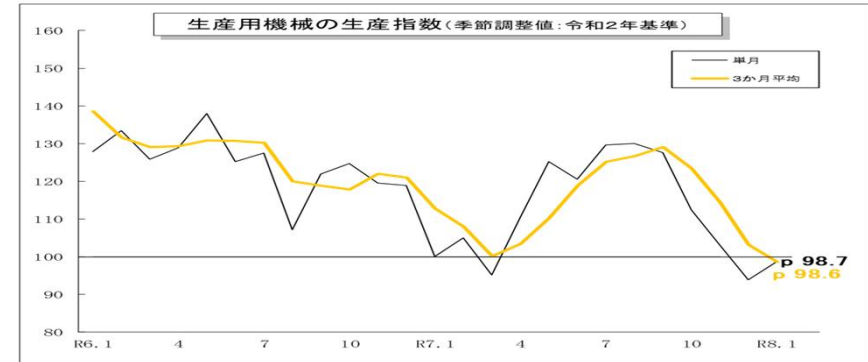
- ▶住宅用は、樹脂製や複合サッシが主流となっており、アルミサッシの市場が縮小している。
- ▶ビル用は、工場の生産水準は高いものの、人手不足等によりビル工事の工期が延びる傾向が続いている。

(5) 繊維は、衣料向けを中心に弱含んでいる。

※前回1月判断(「横ばいの状況にある」)を下方修正  
(令和7年10月以来、2期ぶりの下方修正)

(主なヒアリング結果)

- ▶物価高等により服が売れておらず、国内の衣料向けが苦戦している。また、スポーツウェアが本来のスポーツ用よりもカジュアル用途で用いられる場面が多くなったことで、当社の得意とする高い機能性を付加した生地需要が落ちている。
- ▶カーシート向けは、国内自動車メーカーからの受注が増加している。
- ▶社会インフラに必須な資材として土木・建築用途の繊維の需要は安定している。



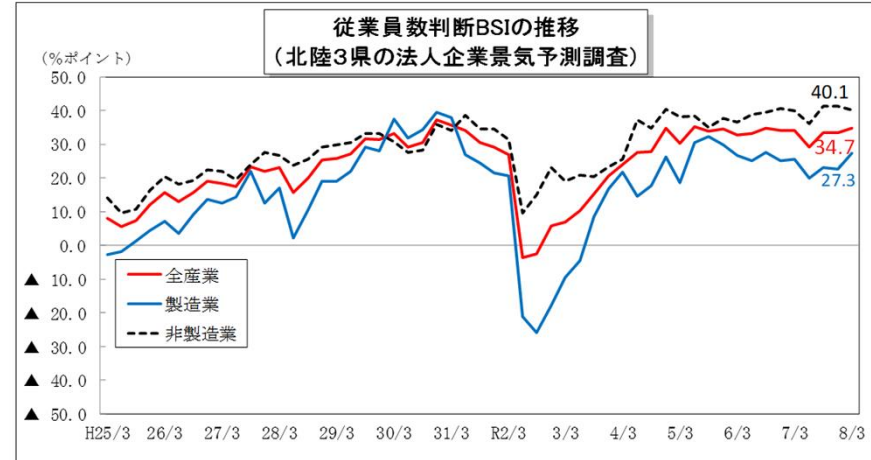
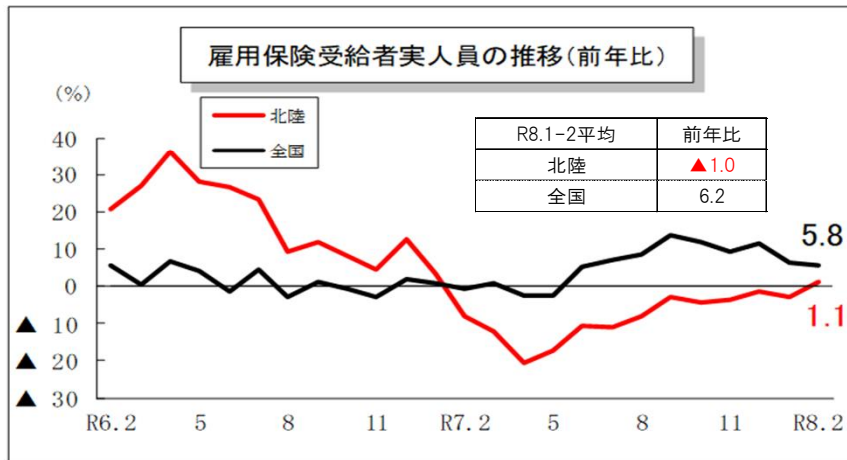
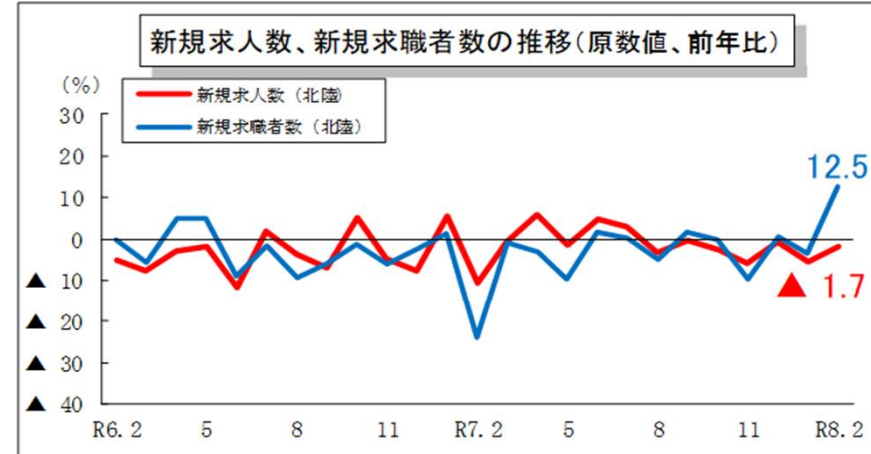
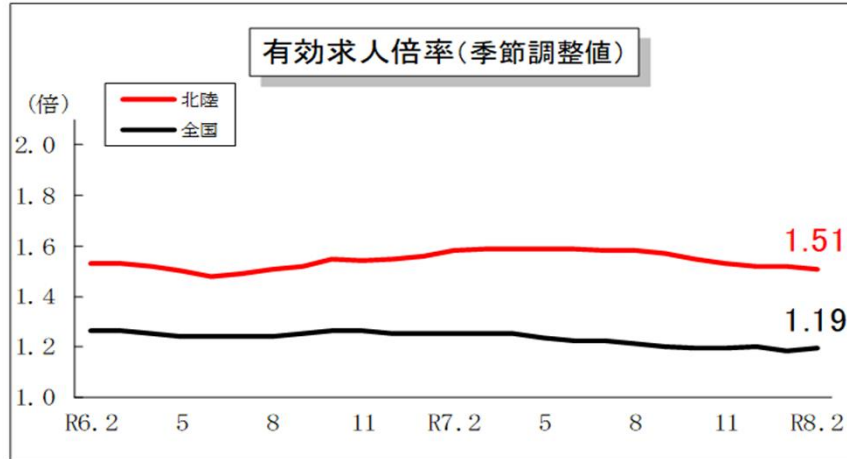
(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局

## 4. 雇用情勢 …… 緩やかに持ち直している

有効求人倍率は、高水準で推移している。  
 新規求人数は前年を下回っており、新規求職者数は前年を上回っている。  
 雇用保険受給者実人員は、前年を下回っている。  
 なお、従業員数判断BSIをみると、人手不足感が強まっている。

※前回1月判断を据置き(令和4年10月以降、15期連続の据置き)



(注1) 従業員数判断BSI = 「不足気味」回答社数構成比 - 「過剰気味」回答社数構成比。  
 (注2) 最新の現状判断は、令和8年3月末時点。